

第13回企画展

山の暮らしー 灯りと温もり

2008.10.24~11.30

今年度の企画展では、人々の暮らしを支えてきた昔の照明や暖房の道具を展示し、あわせて聞き取り調査でわかった昔の暮らしの様子について紹介しました。

展示は「灯りの道具」「温もりをとる道具・炉まわりの道具」「着火用具と熱源」「間取りにみる灯りと温もり」「持ち運ぶ灯りと温もり」というテーマに沿って、それぞれに使われた道具や、お聞きしたお話の内容を紹介しました。展示した資料は〔ランプ〕〔カンテラ〕〔ろうそくたて〕などの照明具、〔火鉢〕〔あんか〕などの暖房具、火をつけるための道具を入れていた〔火起し道具箱〕、炉まわりで使っていた〔火箸〕〔あぶりこ〕など全部で80点ほどで、普段は収蔵庫で保管しているものも含めて当館で所蔵している資料を中心に紹介しました。

また、この企画展の開催のために行った聞き取り調査のときに新たに寄贈していただいた〔ランプ〕〔まっとうがい〕なども展示しました。

見学した方々からは「灯りも温もりも、電気のおかげであることを再認識しました。電気がなくなったら山の暮らしにもどれるか心配になりました」「展示していた自在鉤は火縄銃の銃身を利用したもののようですが、確認してみてもう一度ですか」といった感想やご意見をいただきました。

この企画展の開催にあたり、井畑克雄さんには薪割りの様子を、佐々木富治さんには昔〔きんま〕を利用して薪を運んだ様子を再現していただき、撮影させていただきました。そして次の皆さんには聞き取り調査や資料提供などにご協力をいただきました。

井畑克雄さん、佐々木アキさん、佐々木富治さん、眞田ハルさん、去石清右工門さん、新田サトさん、高屋喜多男さん、高屋ソノさん、田畑キミさん、中村キミさん、中村フチノさん、東隆さん、東ヒテさん、芳門留次郎さん

また過去の調査から、石曾根勝雄さん、田野風ミネさん、三浦嘉久さん、三浦チナさん、山崎武志さん、生方ヒテさん、引屋敷キワさんにお聞きした内容も資料とあわせて紹介しました。

ここにお名前を紹介して感謝申し上げます。

また、当館では引き続き昔の生活用具についての調査をすすめてまいります。今後とも村民の皆様のご協力をお願いいたします。



展示の様子

◆資料館見学に来て!!

今年度は村内から西小、江繋小、小国小、門馬小、村外からは宮古市内の茂市小、墓目小、刈屋小、和井内小の皆さんが見学に来ました。主に3、4年生の皆さんで、授業で習う「昔の暮らし」について調べるために来館しました。どんな昔の道具があったのかスケッチを描いたり、調べたことをノートに書き込んだりと、皆さんとても熱心に勉強していました。資料館で調べたことは、学校に帰って発表したようです。資料館に寄せられた感想文は2階ロビーに掲示しています。



小国小学校3、4年生の皆さん



川井西小学校4年生の皆さん

★これなあに? . . .

下の写真はヨシの葉で、まるで人が編んだようにも見えます。これは小国地区の榊原春雄さんが8月に自宅近くの河原で見つけたもので、不思議に思い教育委員会に持ち込まれたものです。現在調べを進めていますが、数年前にも川井村で見つかったものが新聞で紹介されていたり、「きつねむすび」ともいわれて江戸時代の文献にも紹介されていることがわかりました。引き続き詳しいことがわかりましたら、報告いたします。



◆館務実習生の受け入れ 9月22日～26日

博物館などで働く学芸員の資格取得を目指す岩手大学人文社会科学部の学生12名が当館で実習を行いました。実習内容は展示資料の整理や聞き取り調査などで、当館で行われている日常の館内実務を体験しました。あわせてもの作り体験や雑穀畑の見学も行い、地域の伝統文化にも親しみました。この実習にあたり、聞き取り調査では新田サトさんに、体験教室では湯澤武さん、菊地務さん、湯澤キヌ子さん、雑穀畑の見学では高屋喜多男さんに、また全日程をとおして村内の多くの皆さんにご協力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

次に実習生の感想を一部抜粋して紹介します。「資料館はとてもきれいに整備されているという印象を受けました。独創的などとても迫力のある展示にとっても驚きました。限られたスペースにもかかわらず、たくさん並べられた昔の道具たちの持つパワーは大規模な博物館では感じる事ができないものだと思います。また、聞き取り調査を体験して、こういった地域の資料館の重要性はその地域独特の道具や文化の保存や継承ということのみではなく、人と人との関係もつなぐ役割があるということも感じました。(国際文化専攻・尾之上綾香さん)」「聞き取り調査では、私は味噌の作り方もところてんの作り方も知らなかったので、新田さんに一から説明していただけてとても勉強になりました。貴重なお話がたくさん聞けてとてもよかったです。わら草履作りの体験では、わらを触ったこともなかったので本当に貴重な体験ができました。講師の湯澤さん、菊地さんの手元を見ていて、伝えられてきた技術のすばらしさを感じました。(日本史専攻・佐藤友理さん)」



聞き取り調査の様子



雑穀畑の見学の様子

◆展示替え、映像資料の充実

昨年度から、展示の一部を国の重要有形民俗文化財の指定を受けた資料を中心に配置する、展示替え作業を行っています。作業継続中のため、見学される皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、なにとぞご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、展示内容は次のとおりです。

第一展示室 「農耕」「自然物採集」「狩猟、漁労、養蜂」「山仕事」「炭焼き」「職人の仕事」「山の神信仰」の各テーマに沿って、山の仕事や信仰に関係する資料を展示します。展示室中央の展示室の柱には、用材ごとに樹木名を記した名札がつけられています。また山仕事や焼畑の様子を映像で紹介するコーナーもあります。

第二展示室 「宮古街道・ウマトウシ」のコーナーでは、街道の歴史がわかる資料や畜産用具を展示しています。南部曲屋が再現されていて、その内部には衣食住にかかわる生活用具や早池峰信仰などの道具が収蔵展示されています。現在、中二階に「製糸」「機織」「養蚕」の資料を紹介するコーナーも整備中です。

第三展示室 昭和30年代までこの地で開業していた「小川医院」の診察室を再現し、医師が常駐することが困難だった時代に山間地医療に尽くした先人たちを紹介しています。また実演や体験ができるスペースでは、生涯学習事業「ふるさと芸クラブ」の作品を展示しています。

映像展示室 「館内ガイド」や「木の博物館ガイド」のほかに、村内の皆様にご協力をいただいて撮影した聞き取り調査の様子、民俗資料の使い方の再現や、昔ながらの年中行事の様子などを視聴できます。

◆郷土芸能の記録作業について

民俗資料館では村内の郷土芸能について、各保存会や地域の皆様にご協力いただきながら記録作業をすすめています。今年度は江繋早池峰神楽保存会、末角神楽保存会のご協力により、川井、箱石、小国の各地区公民館で開催した「神楽共演会」についても撮影を行い映像記録として保存しています。また、平成18年度「川井村の郷土芸能」、平成19年度「川井村の神楽」と、これまでに2度郷土芸能を紹介する企画展を開催していますが、その内容について報告書にまとめて3月末に発刊することとなりました。この報告書は村立図書館や各地区公民館でご覧いただくことができます。

郷土芸能は無形民俗文化財に位置づけられています。当館では郷土芸能について、所蔵する有形民俗資料を伝えてきた祖先たちの心の世界や社会生活を表すものとしてとらえ、今後とも詳細な調査や記録作業を行ってまいりますので、村民の皆様のご協力をお願いいたします。

◆今年度の入館者数（2月末現在）

一般	学生	児童	団体
440	3	7	581
免除・公用一般	免除・公用学生	免除・公用児童生徒	合計
112	48	43	1,234

来館者の感想（メッセージノートより）

- 「山のくらし」なんだか自由で楽しい感じと思っていましたが、自然の厳しさや恵みをいろいろとまじめに利用しながら暮らしていた様子がわかりました。
- ついこの間まで皆さんがしていたとても大変な労働を展示してある道具をとおして少しだけですが知ることができました。

◆地震被害

6月と7月に大きな地震があり、展示物が落下するなど当館の展示にも一部被害がありました。展示資料自体に損傷はなかったものの、第二展示室に復元している萱葺き屋根のカヤが一部落下しました。1度目の地震後は文化財調査委員の高屋喜多男さんにご指導いただきながら職員総出で復旧作業を行ったのですが、2度目の地震でも被害が出たため、村土木建築組合に依頼して修理を行いました。

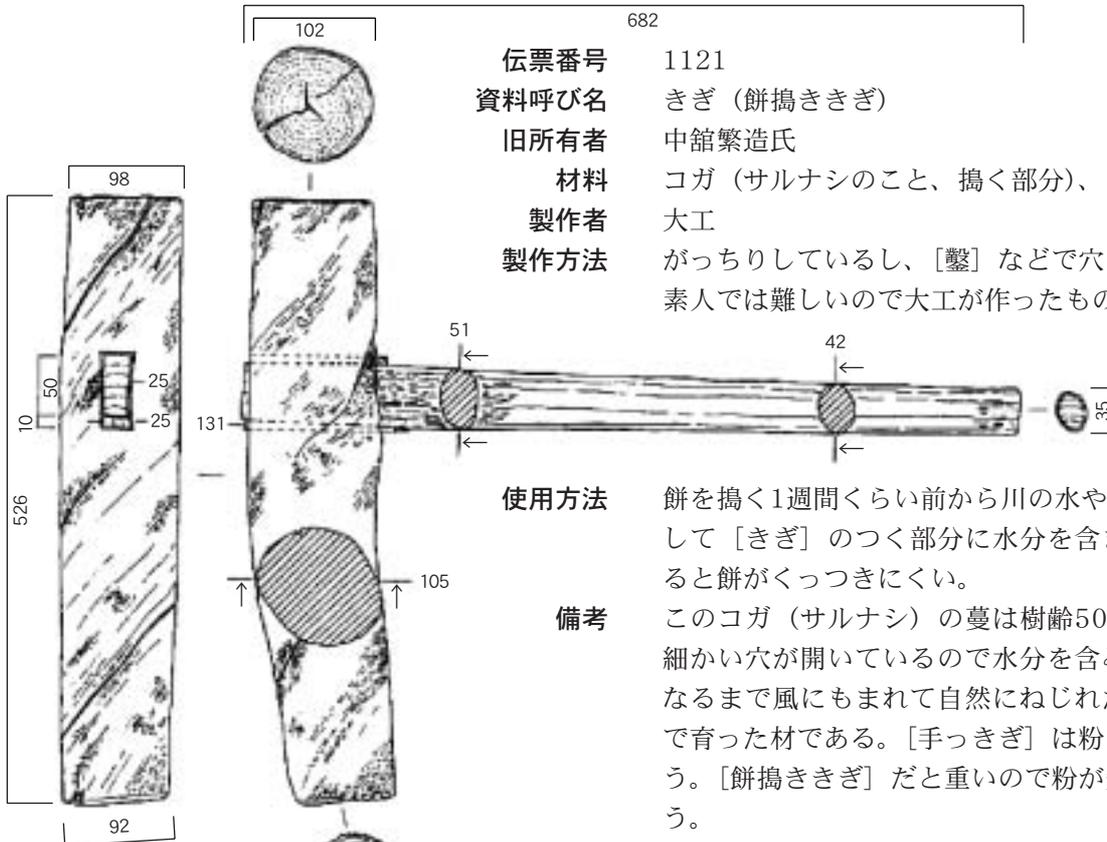
◆民俗資料のガスくん蒸（10月1日～6日）

民俗資料館の資料を保管している村生涯学習センター（旧小国中学校）の体育館で、ガスくん蒸を行いました。ガスくん蒸は木材や布でできている民俗資料を虫やカビの害から守るために行っています。作業は専門業者によるものですが、くん蒸後も清掃を行い、害虫がすみにくい環境を維持するよう努力してまいります。また資料の虫害防除については、国や県の文化財保護の方針に沿って、他館の動向を見極めながら、今後もより良い方向を模索してまいります。

◆資料の寄贈（平成20年3月～21年2月）

佐々木富治様（松灯蓋など）、佐藤清実様（つるとび）、真田ハル様（マッチ箱）、去石清右エ門様（ランプ）、高屋喜多男様（体験用[かんじき]）、三浦嘉久様（火鉢など）、中村キミ様（マッチ箱）、道又邦彦様（とうか）、川井村役場（半鐘など）

ご協力ありがとうございました。スペースの都合ですぐに展示はできませんが、お名前を明記し、展示資料と同様にきちんと管理して参ります。



伝票番号 1121
 資料呼び名 きぎ (餅搗ききぎ)
 旧所有者 中館繁造氏
 材料 コガ (サルナシのこと、搗く部分)、クルミ (柄)
 製作者 大工
 製作方法 がっちりしているし、[鑿]などで穴を開ける作業は素人では難しいので大工が作ったものと思われる。

使用方法 餅を搗く1週間くらい前から川の水や樽水につけたりして [きぎ] のつく部分に水分を含ませる。こうすると餅がくつきにくい。

備考 このコガ (サルナシ) の蔓は樹齢50年以上のもの。細かい穴が開いているので水分を含みやすい。太くなるまで風にもまれて自然にねじれたもの。深い山で育った材である。[手つきぎ] は粉を搗くときに使う。[餅搗ききぎ] だと重いので粉が飛び散ってしまう。

話者 高屋喜多男氏
 重量 2660g
 調査年月日 2005.2.28
 調査者 桜岡咲子
 作図者 桜岡咲子

「ねじれた杵」から

今回「杵」を実測してあるひとつの断面に出会いました。それは私にとって驚きの一瞬でしたが、名久井先生がにっこりとして下さった印象的な場面でもありました。

「杵」の餅をつく部分の断面は、おそらく普通の円だろうとなんの疑いもなく、実測を進めていますと、できあがった断面が思っていたような円ではなく、ちよつと歪んでいました。それはまさしくこの「杵」がねじれた木で作られたことを証明してくれる円だったので。このときほど、計った通りに図ができることを実感できたことはなく、その新たな発見の中にさらに実測図の深さを知ることとなりました。

その後、この「杵」がとても珍しいサルナシの木 (この辺りではコガというそうです) で作られていることを、高屋喜多男さんより教えていただきました。深い山の中で、

太くなるまで何年も何年も風にもまれて自然にねじれた木で、五十数年はたつていてということですね。この木は、柔らかく細かい穴があることで餅をつく数日前に川や樽の水につけて、水分を含ませることでズシッと重くなり餅がつけ、そのとき穴から染み込んだ水が出て「杵」に餅がつかないということでした。このサルナシの木が餅つき用にいかにか適しているかがわかる大変貴重なお話でした。

「杵」の実測図をどんなに眺めても、このような重要な情報を得ることはできません。古い時代の暮らしの中で作った人々や使った人々がいます。そしてそのことを語り継いでくれる人々がいてはじめて、その資料の息遣いを聞くことができるようになります。今回、このひとつの「杵」の断面から得たことは、大きく私の心に残りました。

桜岡咲子

実測図は民俗資料をきちんと計測して図面化したもので、民俗資料の素材、構造、製作技術、外形などの情報を伝えることができます。当館名誉館長の名久井先生は実測図には次の3つの役割があると述べておられます。

- 記録保存資料 (未来への情報伝達)
- 啓蒙資料 (一般の人々への情報伝達)
- 学術資料 (研究者への情報伝達)

作図者がじっくりと観察し、丁寧に仕上げられた実測図は、当館の記録となるだけではなく、他地域や未来へ向けた情報発信の手段となります。地道で労力を必要とする作業ですが、今後も川井村の伝統文化を記録する実測図作製を続けていければと考えています。